

## 令和2年度 府立丹後緑風高等学校（網野学舎） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 丹後緑風高校のコンセプト「夢と人・学舎・地域・世界を結び、ものごとの本質を究め、新たな価値を創りだす」人材を育成する。</p> <p>2 教育目標、教育方針（育成する力）、育てる生徒像を教育活動の中に明確に位置付け、その具現化を図る。</p> <p>3 生徒信条「青年は未来を信じ使命に生きる」の精神にのっとり、将来に対する夢や目標を持たせ希望進路の実現に向けて挑戦する姿勢を大切にする。</p> <p>4 地域の中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを推進する。</p>		<p>1 久美浜高校・久美浜学舎との緊密な連携を図り、遠隔教育システムの活用、農商連携、合同部活動に向けた準備等、学舎制の体制整備を進める。</p> <p>2 産官学連携による地域創生教育を推進し、地域の将来を担う人材を育成する。</p> <p>3 オリンピック・パラリンピック教育推進校として、スポーツを通して共生社会を目指す教育を一層推進する。</p> <p>4 広報活動の充実を図り、本校の特色・魅力を発信し、積極的な生徒募集を進め、本校を第一志望とする生徒の増加を図る。</p> <p>5 ICT活用やアクティブ・ラーニングによる授業改善や総合的な探究の時間における探究活動の充実を図り、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。</p> <p>6 学校行事・部活動・ボランティア活動等を通して主体的に考え、行動する生徒の育成を図る。</p> <p>7 いじめには組織的に対応し、予防や早期発見・解消に努める。また、情報モラル教育の徹底を図る。</p> <p>8 3年間を見通した系統的な進路指導により、進路意識の向上を図るとともに、希望進路実現のための基礎・基本の徹底と実践力の養成を図る。</p> <p>9 「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を踏まえ、コンプライアンス意識の向上や新学習指導要領への対応等、ステージに応じた教職員の資質能力の向上を図る。</p> <p>10 教職員の働き方改革を進めるために、教職員の意識改革と業務改善を一層推進する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
特色化事業	・広報活動の充実と生徒募集の拡大	・広報紙とホームページにより本校の教育活動の特色・魅力を広く発信する。 [ホームページの更新回数週5回]	A	A	C	・感染防止のため教育活動が制限される中、ホームページは平均週5回の更新が実施できた。学校生活の様子（授業・部活動・検定結果等）をタイムリーに発信することも進めたい。 [ホームページの更新回数平均週5回]
	・地域創生の取組とオリンピック・パラリンピック教育の推進	・地域と連携した活動に主体的に取り組むとともに、地域の魅力や課題に気づき、その発信や課題解決に取り組む。[TACの取組年間6回以上]	C	C	C	・感染防止を行いながら実施可能な取組の検討や活動内容の周知の必要がある。また、活動に意欲を持つ生徒の育成も課題である。[TACの取組1回]
		・パラリンピック種目をはじめとしたアダプテッドスポーツ等の理解を深め、障害の有無にかかわらず誰もが共に楽しめるポッチャを体験する。 [生徒のポッチャ体験者の割合100%]	C			・年度当初のLHR計画等に位置付け、計画的に取組を進める必要がある。また、ゲーム体験だけでなくスポーツを通して共生社会について学習する機会としたい。[生徒のポッチャ体験者の割合38%]
組織・運営	・学舎制の実施にともなう体制確立	・学舎制に実施にともなう体制の確立を図るとともに、久美浜高校・久美浜学舎と連携した取組を計画・実施する。 [学舎間連携の取組年間7回以上]	C	C		・物理基礎の遠隔授業の試行を計画的に実施できた。次年度はビジネス基礎の試行に取り組む必要がある。また、農商連携を中心に京丹後市地域コーディネーターの活用を進める。 ・2学期から学舎間移動バスの運行により、部活動の合同練習が始まった。[学舎間連携の取組3回]
	・教職員の資質能力の向上	・本校の教育課題への対応と教職員のステージに応じた能力向上のための研修の充実を図る。 [センター研修の受講延べ数30回以上]	C	C	・オンライン研修に対応できる施設設備の整備の必要がある。今後、生徒の1人1台端末の使用に向けて、授業での利活用について教員のスキル向上のための研修充実が必要である。 [センター研修の受講延べ数8回]	
	・教職員の意識改革と業務改善による働き方改革の推進	・業務改善アンケート等を実施し、業務の見直し効率化を進めるとともに、19時30分までの退勤を目標とする。 [19時30分退勤率90%以上]	B		・業務改善や退勤時間に対する教職員の意識は定着してきている。今後、部活動終了時間や完全下校時間についても検討の必要がある。 [19時30分退勤率72%(昨年最終68%)]	
学習指導	・生徒の主体的な学びの支援	・アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の主体的な学びを深めさせる。 [授業評価アンケートでA・Lの視点を取り入れた主体的な学びが工夫されているによくあてはまると回答した生徒の割合75%]	B	B	B	・グループワークや発表等アクティブ・ラーニングの要素を取り入れる授業が増えている。主体的な学びを深めさせるためには、教員の一層の研修が必要である。 [授業評価アンケートでA・Lの視点を取り入れた主体的な学びが工夫されているによくあてはまると回答

	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な授業に向けた取組の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器や遠隔教育システムの積極的な活用を推進する。 [ICT機器及び遠隔教育システムを活用した教員の割合90%]</li> </ul>	B	B	<p>した生徒の割合73%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨時休業によってICT機器の活用が加速された面もあるが、タブレット等を活用した授業が増加している。ICT機器の整備は一定進んできているが、今後一人一台端末の導入に向けた準備の必要がある。 [ICT機器及び遠隔教育システムを活用した教員の割合72%]</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や態度を調整できる力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人としての「あいさつ、身だしなみ、礼儀・マナー、5分前行動」等の指導を全教職員で行う。</li> <li>自分の身は自分で守る、危険回避の行動がとれる力をつけさせる。情報モラルに関する講演会・交通安全の取組を実施する。 [交通事故・遅刻ゼロ]</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>5分前登校等の予防的な指導が、効果を上げている。元気なあいさつについては、コロナ禍の影響もあり不十分な面もある。</li> <li>1年次生に対する初期指導が、臨時休業で不十分だった面があった。</li> <li>情報モラル講演会は実施していないが、機会を見つけて、自分の情報を出さないように注意喚起を、全体・個別に指導を行った。[交通事故1件・遅刻11回]</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>心と体を調整できる力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率を維持しながら、体力や感性を育成する。</li> <li>生徒会活動（専門委員会）活動の見直し。 [部活動加入率80%以上]</li> </ul>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率は維持されている。感染防止対策をとりながら、活動の充実を図る必要がある。</li> <li>感染防止のため行事等に制約がある中で、実施可能な方法を考え取り組んできた。生徒会各委員会も生徒による感染防止の啓発活動等積極的に活動している。 [部活動加入率88%]</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係を調整できる力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめを見逃さず、早期に対応するために、生徒の情報を教員で共有する。</li> <li>地域貢献・キャリア教育につながるボランティア活動に積極的に参加させる。 [ボランティア活動の年間参加延べ人数1,000人以上]</li> </ul>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒情報の共有は、教育相談・いじめ対策会議で行っている。情報共有後のフォローが十分なされているか確認が必要である。</li> <li>地域イベントの中止や感染防止の観点から、対外的なボランティア活動は、参加が困難な状況であった。今の状況に応じた実施が可能な取組や生徒にとって有意義な活動の機会を検討する必要がある。 [ボランティア活動の参加延べ人数525人]</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的なキャリア意識の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者に対して大学入試改革等に関する最新の情報を提供する。</li> <li>進路選択、職業選択が主体的にイメージできるよう各種進路行事の実施と担任、チューター、進路指導部員等によるきめ細かな面談を実施する。</li> </ul>	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次生対象のガイダンス等の進路選択に関わる行事が実施できなかった。</li> <li>進学希望者には、1年次からの学力向上を意識した学習指導や粘り強く取り組めるようなサポートが必要である。</li> </ul>

		[進路希望未決定者人数1年次生10人未満]				<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次生に対し、地元企業の見学等により、職業意識を高める取組の実施も検討したい。</li> </ul> [進路希望未決定者1年次生15人]
保健・安全 教 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健やかな心身の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症防止の対策と指導の徹底を図る。</li> <li>・外部機関と連携した講演会を実施する。</li> <li>・生徒保健委員会による健康啓発活動に取り組む。</li> <li>・SCを活用した教育相談を積極的に取り組む。</li> </ul> [講演会2回、保健委員会の活動2回]	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の健康観察や清掃の徹底等感染防止対策に努めるとともに、保健委員会・美化委員会と連携し、生徒による啓発活動を実施した。</li> <li>・外部機関と連携をした講演会が計画通りに進まず、教員による指導等の実施可能な方法で取り組んだ。</li> <li>・SCのより積極的な活用を検討したい。</li> </ul> [講演会2回、保健委員会の活動4回]
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全意識の向上と危機対応能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練を実施する。</li> <li>・自転車安全推進員講習会の実施と推進員による安全啓発活動に取り組む。</li> <li>・体育・部活動における怪我予防に取り組む。</li> </ul> [防災訓練2回、自転車安全推進員講習会1回]	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練は1回実施となったが、適切な避難行動が取れていた。防災委員の活動は毎日実施できた。</li> <li>・自転車安全利用推進員による安全啓発活動に継続的に取り組むことができた。</li> </ul> [防災訓練1回、防災委員毎日活動、自転車安全推進員講習会実施(44名受講)]
人 権 教 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の人権意識の高揚と人権問題の解決に向けた具体的な行動の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習や日々の様々な活動を通じ、人権問題を正しく理解させる。</li> </ul> [人権に関するホームルーム各学年2回以上実施]	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回の人権学習を行った。また、1回は講演を聴講し、人権問題について深く考え理解することができた。[人権HR2回実施]</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の認識の深化と指導力向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな差別解消法制定等の状況を踏まえた校内教職員研修を1回以実施する。</li> </ul> [研修実施回数]	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府の人権教育に関する教職員の意識調査結果報告も踏まえ、差別解消法に関わって中高連携や同和問題の現状に対する研修ができた。[教職員研修2回]</li> </ul>

※具体的方策・成果と課題の数値目標及び達成状況の数値は、網野高校の数値を合わせたものである。

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業・部活動ともに生徒が進んで取り組んでいる姿勢が見える。</li> <li>・企画経営科では資格試験（検定）に対応した授業が行われており、取得資格を活かした進路指導も積極的に行われている。</li> <li>・部活動のレベルの高さ（レスリング・新体操）は、大きな魅力がある。</li> <li>・コロナ禍の中、感染防止対策を行いながら実施可能な方法を検討しよく努力している。生徒も学校での活動の大切さが今まで以上によく分かったことで、学校評価アンケートの評価が高くなったのではないかと。</li> <li>・情報機器は次々と新しくなるので更新が必要である。また、教員の機器の使用への習熟が必要である。</li> <li>・コロナ禍で不安を感じている生徒をしっかりと把握して、十分な対応をお願いしたい。</li> </ul>
-------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度に  
向けた改善の  
方向性

- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら、実施が可能な方法を検討し、生徒の学力向上と達成感を感じられるよう教育活動の充実を図る。
- 広報については、さらなる内容の充実に努め、本校の特色や生徒の活躍の発信に努める。
- 久美浜高校・久美浜学舎との緊密な連携を図り、京丹後市地域コーディネーターの活用による農商連携や合同部活動の実施等、学舎制による教育を推進する。
- 業務改善アンケート等を実施し、学校行事の見直しや業務の効率化を図り、業務改善の取組をさらに進める。
- ICT活用やアクティブ・ラーニングについて、先進的な教員の実践を共有し、授業改善の取組を進める。また、単位認定を伴う遠隔授業の円滑な実施を進める。
- 総合的な探究の時間を中心に、生徒の課題発見・解決力や情報の収集・分析、発表・表現等の力を育成するために探究活動の充実を図る。
- いじめについては、今後も組織的な対応を進め、予防や早期発見・早期解消に努める。また、情報モラル教育は、今後も継続して指導を行う。
- ボランティア活動等の地域貢献・地域創生活動の推進を図り、生徒の主体的な取組やキャリア形成につながる取組となるよう充実を図る。
- 大学入学共通テスト等の高大接続改革に対応する実践力の養成と適切な進路情報の提供を進める。